

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 小坂井 盛朗
 幹事 舎人 経昭
 会報・雑誌委員長 伊藤 健文

No.24

手を貸そう

Lend a Hand

2003~2004年度 RI会長 ジョナサン・B・マジアベ

きょうの例会

第1026回 平成16年1月27日(火)

友愛の日

先週の記録

第1025回 平成16年1月20日(火)

晴

◆“奉仕の理想”

◆斉唱 “四つのテスト”

◆出席報告

会員	65(55)名	出席	42名
出席率	76.36%		
前々回	1月6日(修正出席率)		96.43%

◆ビジター紹介 1名

舎人幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方は2階オーキートルームにお集まり下さい。
2. 次回例会終了後、クラブアセンブリーを開催致しますので、理事役員・各委員長はお残り下さい。

小坂井会長挨拶

糧秣倉庫の使役 大失敗のち大成功

時々貨車からトラック、トラックから食糧倉庫への運搬の使役に我々は駆り出された。のどから手が出る程欲しい糧秣を何とかクスネられないかと皆で考えた。

最初の計画は次のようにしたのであった。

倉庫で米の袋を破り防寒長靴に入れて運び出そうとしたのである。ところが少し歩いたところで全員がヘタリ込んでしまった。何せ零下数十度の凍った米粒を足に入れたのだから最初のうちはよかったが足が凍って痛くてたまらず全員が座り込んでしまった。

不思議に思ったソ連兵が「ダワイ・イジー」と言いながら銃の先で小突くのだが、次から次へと日本兵

がヘタリ込むのを見て病気かと慌てたが、原因が判って呆れるやら怒るやら我々は倉庫までハイズリながら戻って米を全部返納するハメとなってしまった。

作戦は残念ながら大失敗、何とか成功させようと色々知恵を絞りついに名案を考え出した。それは米屋さんが俵の中の米を検査する為に使う鉄製の筒型で俵に突っ込むと米が出てくる。それで米の検査をするのだがそれを竹で作りその先に袋を長く付けたものを作った。

そして次は防寒外套の右のポケットの底を抜き外套の外皮に出来ている穴(飛び火で出来たコゲ穴)をふさぐ仕事だ。大きな穴はつぎ布を当ててまつり、小さな穴はつまんで糸でくくる。一心不乱の作業を終わりそれを着たのを見て皆がフキだした。まるで針ねずみのようであった。そしてそれを着て次の日の作業に出た。

零下数十度、寒い寒い雪の散らつく倉庫ヘトラックからマータイ袋をかついで倉庫の内へ運び込む作業である。頃合を見計らい監視の死角に立って竹刺しでブスリと俵に突き刺す。サラサラと出て来た米が外套の二重の中に入り込む。一箇所にとまったのを外套をゆすって全体に廻し相当入れたところで戦友にその竹刺しを渡し交替だ。何くわぬ顔をして又運搬作業につく。

全員が入れ終わり最後のものが竹刺しを外套の裾に放り込んで見つからないようにした。案の定、作業が終わった我々の外套をソ連兵は外から触って検査だ。脹らんではいない。パスである。シメシメ大成功。シテヤッターと何の罪悪感もなく我々の生き残る糧秣は確保されたのである。

兵舎へ帰ってから外套をひっくり返して米を出す。石油缶を切った缶にこれを集める。中には米と間違えて高粱やアワを持ってきたドジもいた。石油缶に入れた米はごみや小石と一緒にくた、これを選別している暇はない。そのままグツグツと炊くと出来上がりの上の方はまるで藁をひいたようだ。たき上がると板の上でドカンと伏せてご飯を出す。これを数等分に分けあい、下になった藁クズを残して食べた。オカズなしでも旨かった。久々に腹一杯になってゴロリ。日本へ帰る夢を見たのである。

◆卓 話

“私の陶芸遍歴”

会員 山田 壽勝君

私が初めて作りました抹茶茶碗は中村道年さんの八事窯における体験制作の赤い楽茶碗でした。今からおよそ40年程前のことでもあります。

抹茶茶碗を続けて850個ほど作りしたのは蒲郡RCから名古屋千種RCへ移った平成10年から後のことでもあります。従って「陶芸遍歴」などと大袈裟な表題をつけることは適当ではございません。

鈴木理之さんの「作家と職人」のお話のような四代も続くお家柄の職人芸というか制作者としての伝統芸を考えますと私の場合などとてもお話にもなりません。

少年時代から私は亡父の作った抹茶茶碗や菓子器や香炉など数多くの作品を見てきましたので、いくらか参考にはなりましたが「見る」のと「作る」のとは大変な違いがあり「作る」ことによって初めて「見る」ことができるというのが正しいのではないのでしょうか。

私は小4から中3まで6年間、週1回熱田神宮西、白鳥町の丹羽玉邦師匠のもとへ「日本画」の稽古に通っていましたので、邦画は眼をつむっていても描くことが出来る素養が身についています。

ここにあります作品「宝珠」は西加茂郡小原村の和紙工芸館において私が右手の人さし指で描いたもので、豊橋地区IMの美術展で豊川宝飯RCの平成8年度会長の青木恒義さんに「買いたい」といわれ「非売品で手元に置きたいものです」と申しましたところ

「それでは実物大の写真でいいから売ってください」とあまりにも御熱心なのでオリジナルの作品をプレゼントしたことがあります。同氏は豊川稲荷、正しくは豊川閣妙巖寺の副座であり同寺のトレード・マークが「宝珠」でありますから、どうしても欲しかったワケが後程になってわかりました。

さて、ここにあります四つの作品は、いずれも千種区役所の美術展で入賞したもので審査委員長は佐野寛先生であります。抹茶茶碗のような小さい作品では、どうしても「市長賞」はムリですから去年は思いきって少し大きい片口菓子器を作り「庭の千草」と銘打って出品しましたら幸いにもそれが待望の「市長賞」となり素人の私にとりましては今までにこれほどの達成感を体験したことはありませんでした。私は今年81歳になりましたが長生きしてよかったと心から喜んでおります。

国内の陶芸遍歴としては九州の各地を始め、全国数十箇所を見学いたしました。作品の出来あがりには上には上があり、特に近く的美濃地域には全国的にも有名な優れた作品が昔から作られております。

ドイツのマイセンへは2回訪問しましたが、中国の景德鎮へは行ったことがありませんので元気なうちにぜひ数回は訪問したいと願っております。

- 天目の釉薬かけて 幾百個 遂に出会ひぬ 満天の星
- 黄瀬戸地に 織部をかけて 思ひきや 形となりぬ 片口菓子器

ニコボックス

(1/20分)

森 幸一

中部経済新聞に新会社が紹介されました。会長のお取り計らいで本日コピーをご案内させて頂き、ありがとうございます。

今後とも宜しくお願い致します。風邪に気をつけましょう。

浅井 誠寿

今日は歩いて来ました。北千種公園にふっくらした鳩がみんな地上に降りてじっとしてい

るのが異様でした。
ふくら鳩 地に寒林は風のもの
二村 聡・萩原喜代子
林 哲央・池森由幸
伊豫田博明・加藤重雄
河合隆二・菊池昭元
小林 明・小杉啓彰
小山 雅弘・小坂井盛朗
久野 峯一・黒須アイ子
松居 敬二・松永正史
三輪 康・宮尾 紘司
三好 親・水野 民也

水谷 祥督・成田 良治
奥本 文也・佐野 寛治
笹野 義春・澤田 淳理
鈴木 正男・鈴木 優
竹内 眞三・谷口 元
舎人 経昭・魚津 常義
和田 正敏・山田 壽勝
風邪に気をつけましょう。

合計 46,000円

(1/13分)

名古屋錦RC 寺西 正君
石川まち子さん
北村 隆子さん

IM登録の御礼に上りました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

大口 弘和

本日卓話をさせて頂きます。

浅井 誠寿

私の長男の長男が成人式を迎えました。身長186cm、私よりふたまわり大きく気圧されます。年玉は もはや 成人祝いとす

小山 雅弘
ロータリーの友表紙は、上野泰郎先生の作品です。この絵は全部筆を使わず指で描いたものです。
在田 忠之・萩原喜代子
林 哲央・池森由幸
伊藤 健文・伊豫田博明
櫻尾 富二・菊池昭元
小林 明・小坂井盛朗
久野 峯一・黒須アイ子
牧野登志子・松居 敬二
松永 正史・宮尾 紘司

水野 民也・森 幸一
西川 豊長・佐久間 良治
佐野 寛・鈴木 理之
竹内 眞三・舎人 経昭
魚津 常義・和田 正敏
山田 壽勝
秋山君、お元気で！
山本 眞輔
会員誕生日祝い。

合計 47,000円

次回例会 平成16年2月2日(月) 節分例会 於：城山八幡宮 17時～